

# “最後”に思い込め

## ×歴史を刻め

マツゲン箕島硬式野球部



社会人野球  
日本選手権

③

### 選手紹介

## 和田拓也投手(25)

今年8月の全日本クラブ野球選手権決勝では、7奪三振完封でチームの優勝に貢献した。チームを支える大黒柱の一人だ。「マウンドには1人しか立たない。全員の思いを背負って投げる」と大舞台に向けて練習に励んでいる。

大阪府出身。大学4年の春まで公式戦での先発登板は2回ほど。

目立たない選手だったが、社会人野球チーム日本製紙石巻の練習に参加したことが転機となった。自分より遅い球なのに次々に打者を打ち取るエースがいた。「どうして打者を抑えられるのか」。思い切って質問すると「抑えるという堅苦しいことを考えなくてもいい。勇気を持って思っきり投げるだけ」

とアドバイスされた。マウンドでは打者を抑えるために「捕手から要求された通りの球を投げないといけない」と考え過ぎていたため、腕を振り切れないでいた。しかし、アドバイスを受けて、「多少コースがずれてもいいんだ」。そう思えるのと体の力が抜け、制球も安定した。

和田選手は今春、肩を痛めて2カ月ほど投げられない時期があった。復帰したが、今年で引退を決めている。最後となる日本選手権には「ジャイアントキリングを起こしたい。暑苦しく、しがみついてでも勝つ」と意気込んでいる。

【後藤奈緒】



練習試合で登板する和田拓也投手―大阪府貝塚市のグラウンドで